

編輯部報情閣内

報週真寫

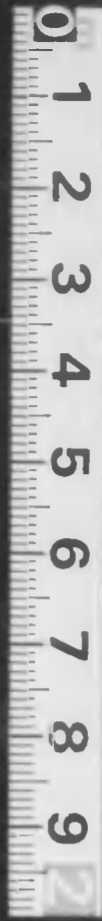
ンセ十 號日五十二月五

昭和十三年十二月五日 號五十二月五年十三年十國民華中 (東京) 第十五號



海軍記念號

坂口健



日露海戦



聯合艦隊旗艦三笠

聯合艦隊司令長官
東郷平八郎大將



敵太平洋艦隊の根拠地旅順港を閉塞して敵艦隊を港内に押し込めてしまふといふことはやがて達成して来るに相違ないバルチック艦隊をむかへ撃つために敵に必要なる作戦であつた。

閉塞といふのは夜陰に乘じ、敵の砲雨を賣して運送船を旅順港口に沈めて敵艦の出入を妨げようとする敵前決死の作戦である。

下は第三團閉塞の壯舉に参加するため旅順水雷艇に乗り本艦を出発せんとする「朝日」号の勇士十二名。送る者も送られる者も大膽な勇気を見せるは

事變下に海軍記念日を迎へて

海軍省海軍軍事書及部

皇國の興衰を此一戦に懸して我々海軍が奮闘一バルチック艦隊を海軍省に退へる戦艦に之を撃滅して、吾等未曾有の大捷を収めてより早くも既に三十三回の光榮ある海軍記念日を迎へ、往時を追慕して感奮無量のものがあつたとりわけ本年は未曾有の事變に際會して一層その感を深くする次第である。

先づ以て吾人は全國民と共に三十七八年戦役に於て幾多犠牲たる武勳を擧げて壯烈その戦に死して皇國興隆の礎石となつた海軍兵士に對し、追慕の意を表し、併せて今事變に於て我國民が奮を擧げて皇國に、饑饉に先聲の責重なる運を繼承して、敵勢力を克服し、皇國の興隆に邁進しつゝあることを感奮無量と想ふ。

爾るに明治三十七八年戦役海軍の戦に於て我先を斷したる三連の海軍、或は前線三團に亘り決行せられた旅順口の閉塞、或は八月十日の黄海海戦の如き、皆これらが海軍の興隆の礎石となつたものである。

然し乍ら明治三十八年五月二十七日、八日に於ける日本海海戦こそは、我海軍の全力を擧げて之に參加せしめ、皇國の興隆を此一戦に懸したる戦陣一團の大決戦であつて、この海軍の興隆の礎石こそは、皇國興隆の礎石の大費を要し、除し東洋平和の基礎を確立することを爲したもので、五月二十七日を以て海軍記念日と定められた所以も實に茲に存するるのである。

抑々この大捷を擧げたものは因より明治天皇の御機成と歴代神靈の御加護に依るものであるが吾人は更に皇國に臨く帝國海軍の實力と共に我國民の皇國の興隆を想ひ起さざるを得ない。

當時の戦に於て公に擧げたる國民的勢力の成果は一々枚舉に盡ない所であるが、其の海軍に關する一例を示せば、財政上多大の困難を克服して、戦前短日月の間に克く六六艦隊、即ち六艘艦、六艘洋艦其の他を、光榮し得たことは、實に驚嘆に値すべき事であつて、即ち海軍の勝利を我々擧げた原因の一つであつたのである。

一方戦一の發展は亦直に全海軍に反映し我海軍の士氣及實力は驚嘆されたところがあり、日夜作戦を繰り、必勝の信念を以て血に血の如き訓練を履行したのであつた。斯くて戰成されたる皇國の威力は遂にこの前古未曾有の大捷を擧げたのである。

ついで現下の支那事變を觀るに、皇國一致皇國國民の熱心たる皇國の精神は既に三十三年前の昔に彷彿たるものあり、皇國國民なる皇國國民に、殊に、將た茲に皇國の興隆を期し、以て征伐の目的達成に邁進しつゝあり、吾人は茲にこの記念日を迎へて、三十三年前の皇國國民の偉大なる業績を追慕すると共に現事變下に於ける我國民の偉大なる奮闘力を切望して已まざる次第である。

胃は
：燃料と
ノルモの
要る肉體
の汽罐だ



胃酸過多
胸やけに
胃痛に
ノルモザン錠

武田發賣品

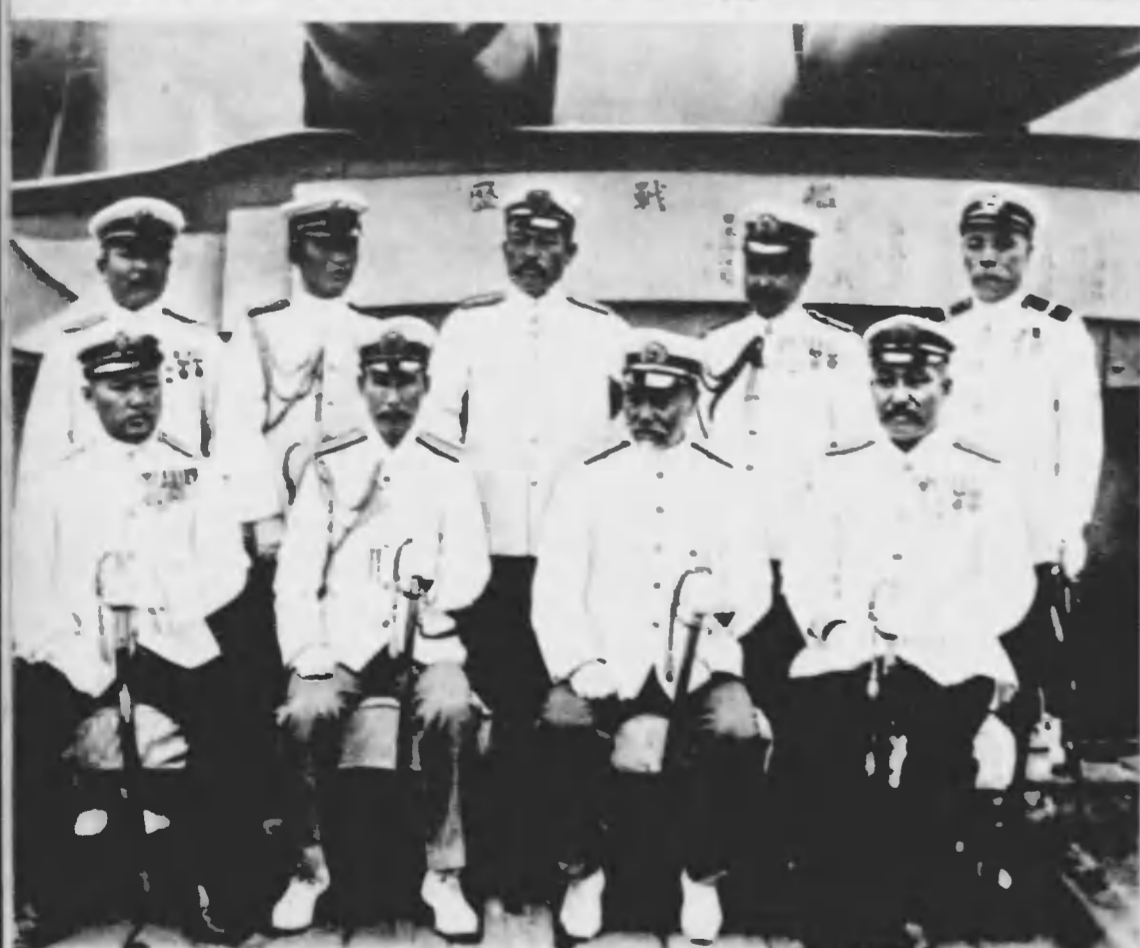
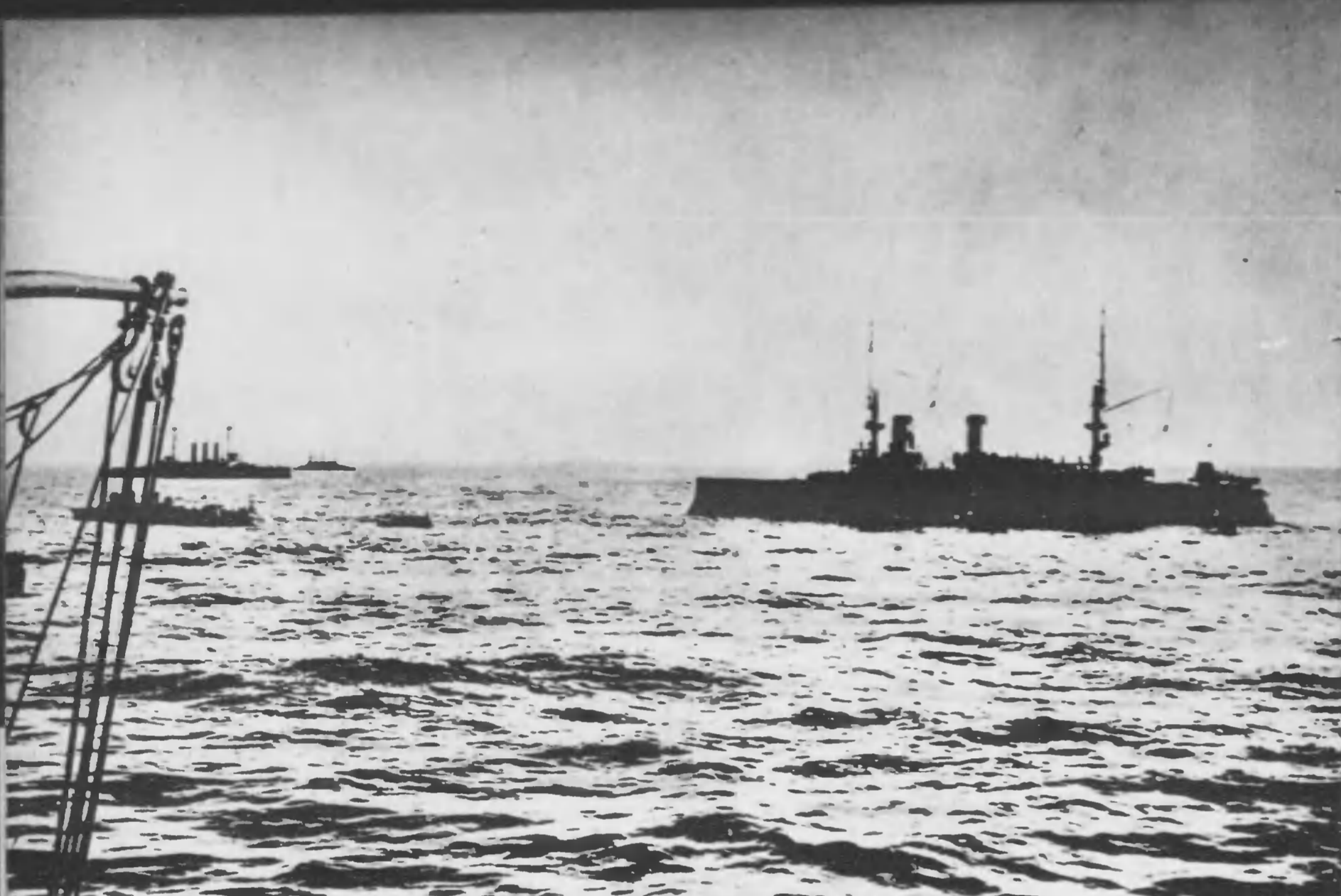


これから
胃酸過多が殖える
食後の胸やけ、嘔氣、生水
空腹時の胃痛、に御注意
この様な胃酸過多の症状に對し、
胃に胃酸を中和して一時的に症状
を抑へる薬では到底根本的の治
療効果は得られません。
胃酸分泌の抑制が肝要
即ち胃酸過多の治癒にはその病源
たるたかまつた胃酸分泌の抑制が
第一とされます。
錠剤アルミニウムを主成分とする
最新の治療薬ノルモザン錠は肝胃
な右の作用を備へ、胃壁の保護
胃酸の吸収作用をも養んで、優美
な治療効果を示します。

効能 胃酸過多、胃潰瘍、胸やけ
嘔氣、生水、溜飲、心かつき、胃
痛、胃力乏し、胃下垂、便秘、惡
癖、宿醉、船酔、車酔。

用法 一回四分(二回) 一回五分(一回)
一日五分(二回) 一日五分(一回)
十分(二回) 十分(一回)
十分(二回) 十分(一回)

發賣元 武田製薬株式會社
大阪市東區東船場
東京代官店 小倉新長町



↑ 三笠艦上の東郷聯合艦隊司令長官及び幕僚
前列右から鈴木重道軍醫
總監(少將)、東郷大將、加藤友三郎少將、山本安次郎
機隊總監(少將)
後列右二目から飯田久
恒少佐、伊知地次郎大佐
(三笠艦長)、清河純一大尉
永田泰次郎中佐(副官)

日本海海戦大勝利の報外
皇國の興隆をかけた大海
戦の勝利の報は勇ましい號
外の鈴の音と共に全国津々
浦々に響き渡り、歡呼の嵐
に迎へられた。
銃後の國民がこの勝報に
どんなに喜びを感じたこと
か、當時を知る人々の言葉
にはなほ生々しい記憶が蘇
へることだらう。

五月二十八日午
後一時、敵はつひ
に決した。敵の旗
艦「ニコライ一世」
は我に降伏し、ネ
ボゴトフ司令官は
八名の幕僚と共に
わか水雷艇「雄」
に移乗し、「三笠」
に收容された。
右に大きく見え
るは「ニコライ一
世」左の二本煙突
の艦は一等戦艦
「敷島」、連方のは
同じく一等戦艦
「淺間」
一朝日一から撮影

時事新報
對馬沖海戰大勝利
敵艦全滅大快報

五月二十八日午後一時、敵はつひに決した。敵の旗艦「ニコライ一世」は我に降伏し、ネボゴトフ司令官は八名の幕僚と共にわか水雷艇「雄」に移乗し、「三笠」に收容された。右に大きく見えるは「ニコライ一世」左の二本煙突の艦は一等戦艦「敷島」、連方のは同じく一等戦艦「淺間」。



明治三十八年五月二十七日午
前五時
敵艦隊二〇三地點に見ゆ、敵は東水道に向ふもの無し。南方哨艦偵察丸からの無電はわが聯合艦隊の全神を極度に緊張せしめた。東郷司令官は「敵艦見ゆとの警報に接し、聯合艦隊は直ちに出發、これを撃滅せんとす。本日天気晴明なれども波高し」の第一報を大本營に送り、全艦隊は勇躍根拠地を出發、對馬海峡に向つた。

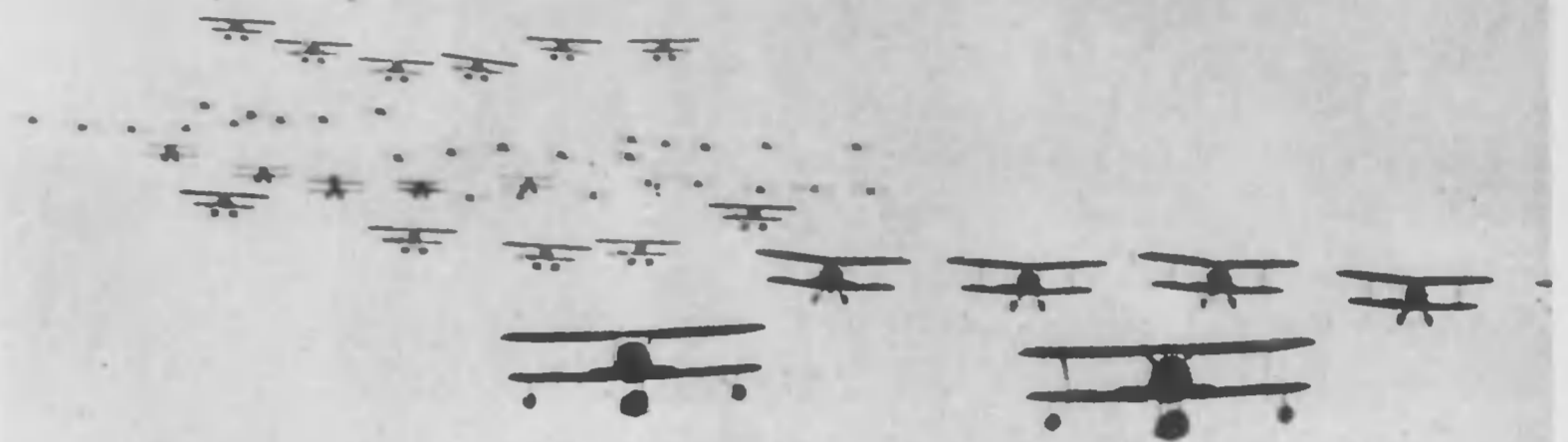
EXTRA!
The Bulletin.
TOGO SINKS TEN SLAV
SHIPS, CAPTURES FIVE

降伏した敵の旗艦「ニコライ一世」は位置が艦列の後方であつたため比較的わが集中弾を受けなかつたが、それでも左舷側には約十個の大穴があけられてゐた。
日本海海戦の戦果
敵艦八隻(二隻沈没、二隻擱浅、二隻中立國進入後武装解除) 三隻中立國進入後武装解除
海防艦三隻(二隻擱浅、一隻沈没) 駆逐艦九隻(四隻擱浅、一隻不明) 雷艇三隻(一隻擱浅、二隻逃走) 特務艦六隻(四隻擱浅、二隻逃走) 病院船二隻擱浅
明治三十八年五月二十九日發行
桑港「ブレン」紙の日本海海戦號外
東郷提督艦隊十隻を撃沈、五隻を擱浅す



きたば羽の鷲若

隊空航軍海浦ケ豊く鷹を技死決

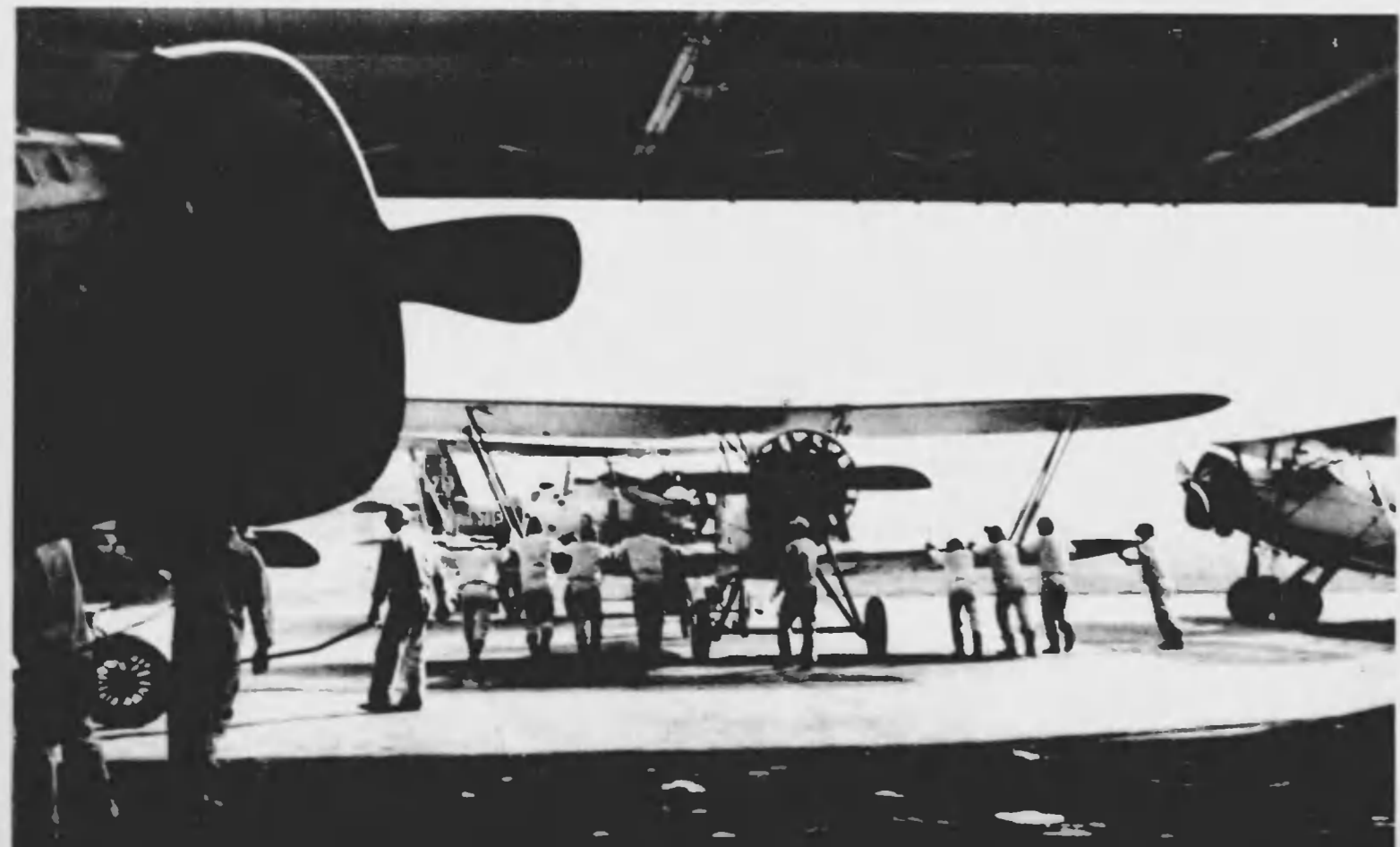


英領領土に下東、
組たるアスファルト
のドライウェイを飛
々とふりそよぐ五月の
陽を浴び目撃する
こと十五分、大々か
ずむ豊ヶ浦を空に
豊ヶ浦海軍航空隊が日
の前に現はれる。
入口にある本部の、
赤い瓦葺のヤナシと
並んだ自動車、旗くづ
一つ落ちてゐない運
場、橋脚に寄り込まれ
た橋木にも一層の輝
輝一が傳はれる。
今、豊ヶ浦には昨日
の密雲空の防衛第一線
に立つべく、鋭く若
い鷲が飛行機を牽
いて豊ヶ浦を駆けつてゐ
る。



兵舎から飛行場まで
二キロメートル、全員
かけ足で、ヨツリ、エツ
サ-のかげで九三式
中型練習機は一齊に格
納庫から引き出される
起動車がプロペラーを
勢よく回転させる、カ
ストル油のほひを流
してエンジンのはばはば
だんだん高く大きく、十
十音をうたふ。この間、
十分、またく聞か
プロペラーの排きおこ
すものなびく風を地上
の草はなび伏し、地上
上乗員も足に力を込
めて踏んばつてあなけ
れは吹き飛ばされそう
なエンヂンの調子よし
にビタリと止る。轟音
の飛行場は忽ち音のな
い平穏にかへり、五月
の爽やかな朝風の流れ
が、おのづかにはじめ
て、午前七時。イワン
が飛び、かげろうもえ
たつ線の飛行場一隅に
出発前の飛行長の訓示
が、一語一語力強く響く
離列した若衆たちの飛
行メカネは朝陽に映え
てキラリと光る。

茶の飛行場、青い落
下傘を腰につけ、藤井
二空、二乗機、同乗、
出発！力強い響と拳
手の響。
数分後にはもう、豊
ヶ浦のやうに霞んだ筑波
山の彼方に、五月の蒼
穹をきつて、ゲンと
と高度を上げて行く。
若衆の地上指揮官の親
心を、二十機、三十機、
若い翼は次々と飛び立
つ、未だの電報たるべ
き日を夢みつ...

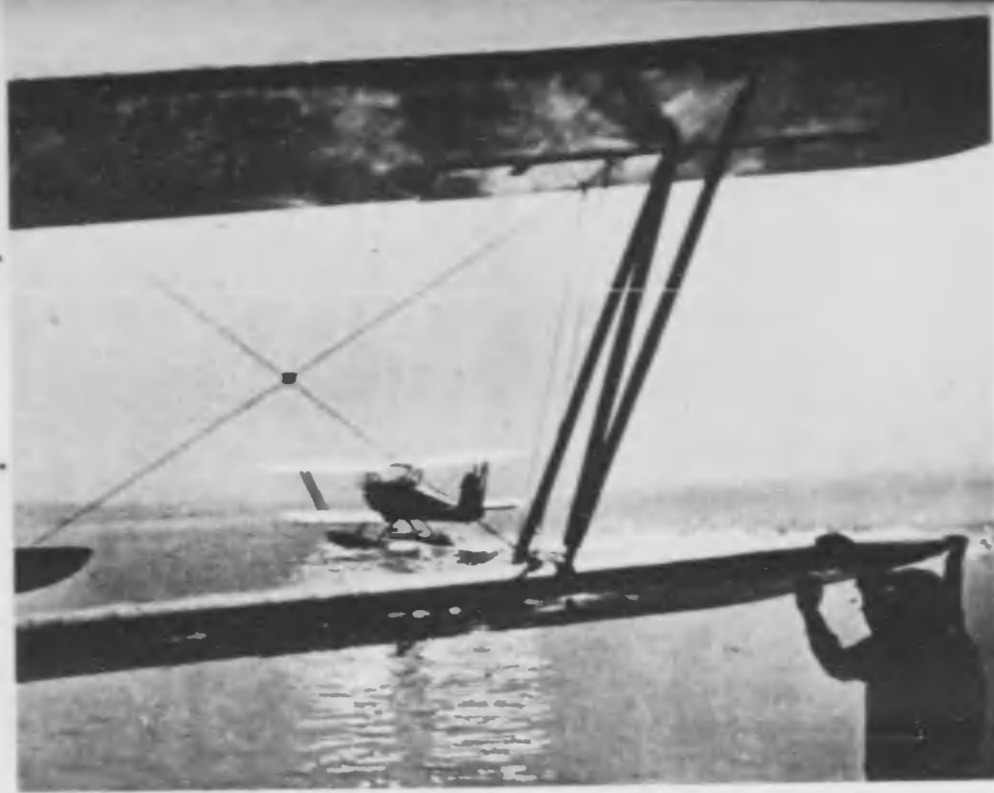




↑ おい、二百メートル下で水上練習機の鮮やかな模様だ、その影も湖上をなめらかに滑つてゐる！ 緑の森と田圃の畝、空から見る日本は何と美しい處だらう。

◇ 初夏の霞ヶ浦、天地もわが身も共に明るく力あり！ 大きく果立つて海の子、空の子！ その船は赤銅色に灼け、潮しぶきに白さびた海軍帽の飛行長は、「飛行機はいくらでも作れるさ、要は人材の養成にある、優秀な人間をつくり出さうと霞ヶ浦の苦勞は大きいなゾ」と晴しさに話してくれた。

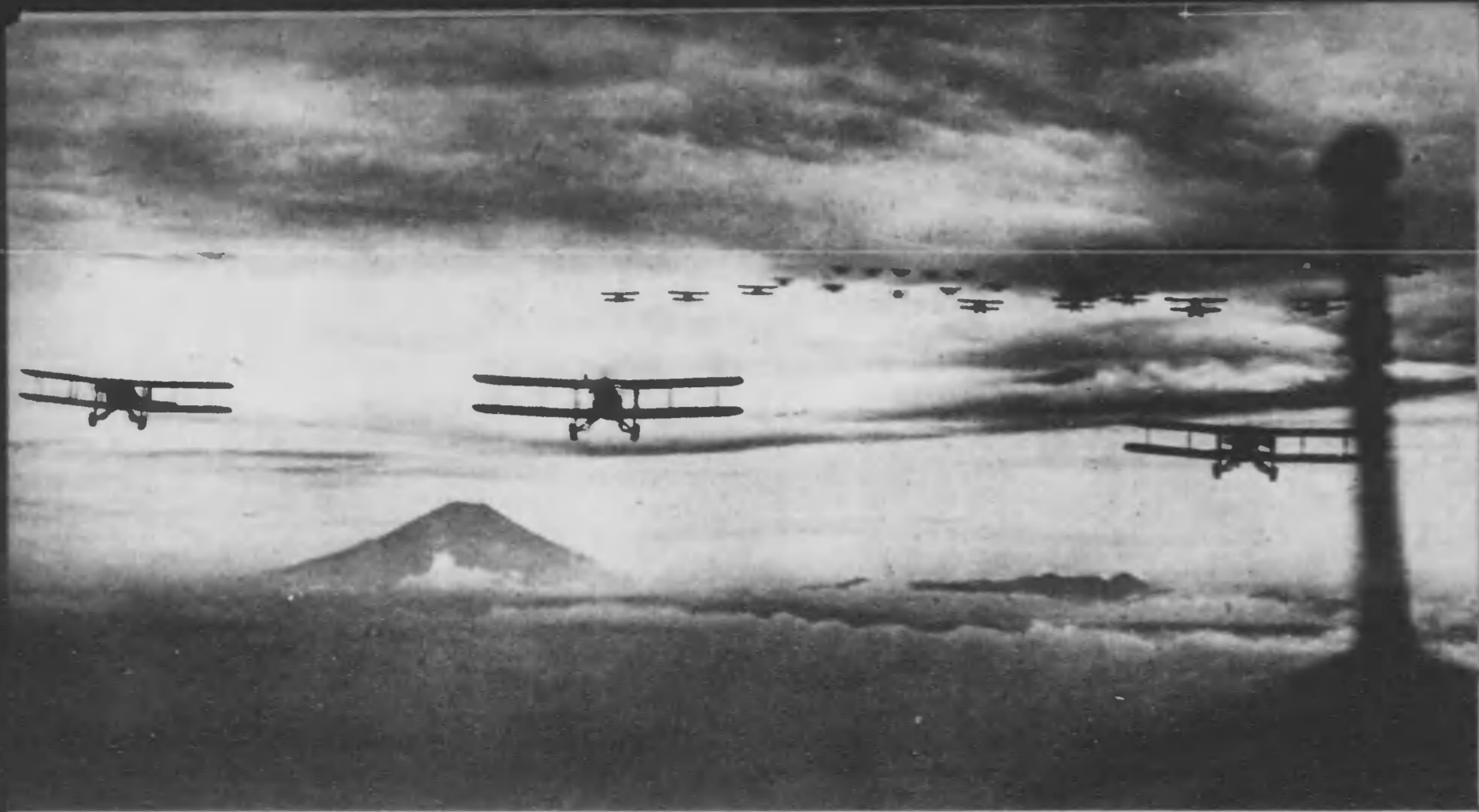
◇ 「いいか、今左旋回をしようとする」 午後學課の「とき、入隊間もなく、教官はまづ模型によつて「空のお作法」を教へ込む。



↑ 七時三十分、ニア、いよいよ飛行開始だ。「離水」一水平飛行、筑波山、丘陵一傳聲管から流れる教官の聲に操縦桿をクツとにぎる。ホツとして見送る地上整備員の防水靴を碧い水がザブリと洗ふ。

◇ 霞ヶ浦海軍航空隊水上練習機が飛んでゐる。格納庫から牽引車でひき出された練習機は今、豪壯な爆音でエンジン調整の真最中。地上整備員の慣れた手は五官をまつめて傳はる響きに異状のないのを確かめる、真剣なひととき





□ 陸軍演習、大空に描いた白煙の妙技。



□ 一機、又一機、編隊を解いた戦闘機は、餌物を狙ふ猛鷲の如く、疾風、攻撃機へ殺到してくる。火を吐く旋回機は、白光きらめく曳光弾、天空高く激流は時ならぬ渦を巻いて激戦ながら壮烈な遭遇戦の幕は切つて落された。

□ 右翼隊危し、二番機、三番機われに続け、とむらがる敵機のまつただ中に飛びこんで激戦、単機戦のねらひ撃ち！機銃座ももるは、隊随一の射撃の名手！

□ 雲海を破つて富士が見える紫色だ、目の下はうねりと流れる大利根、鏡のやうな霞ヶ浦。



航空機は、戦時中、
重要な役割を果たした。
この写真は、戦時中の
航空機を撮影したものである。
写真の著作権は、
© 1998 日本航空写真協会
に帰属している。



精悍！わが陸戦隊

横須賀海軍
砲術学校の演習

日本海軍の、敵地を洗ふ頭となり又陸軍の先頭として、臺灣の如く陸上へ進軍する海軍の精悍！陸戦隊。真兵よく敵地の大軍を交へ、榮光輝然と輝く上海戦史を翻つた、われ等の陸戦隊は、今又、杜鰲門の敵前上陸を敢行、南支那の雄略を開拓しつゝある。偉なる哉、陸戦隊、その野戦なる英姿を、今國內に演習する先武者の演習精悍に思はす。

全軍の「戦ふ感情」を此の一息にこめて、亮々と喇叭を吹けば、高鳴る海の魂は、いざ上陸戦ぞ、と肉弾又肉弾の火蓋を切る。歩武堂々、陸戦隊水兵の踏み鳴らす軍靴は、世界にとゞろく日本の進軍踏た。颯爽とよる手、赤銅色の顔その一つ一つに溢れる、若き日本の逞しさよ！



吐くは、大和魂。吐くは、開塞の火箭。一騎當千の此の機銃、大陸に渡る日は何日？

窮々と變化する演習戦況を送れば、喉に泛ぶ砲門機銃、受話器握る手に、話す聲に、力が入る。力が入る。

〆 敵々敵を引寄せ、一息機滅の時を候、番機銃の無気味な沈黙。カムフラージュの杖葉の中から驚くやうに光る眼の鋭さ。

〆 陸軍の戦友よ、わか屍送えて進め、と鐵條網破壊の決死行。開いた突撃路は、そのまゝ、東洋平和の道となる。皆、その日の覺悟を無心の顔に隠して、今は黙々と演習の鉄を操る。

〆 敵は幾度もありとて此の野陣を守るは精銳陸戦隊。一尺掘つて、既にトーチカとなり、二尺掘つて、難攻不落の城砦となる！





〇 瓦斯マスクの装着は一瞬を争ふ。「瓦斯！」「瓦斯！」戦友に危急を告げて、素早くマスクを着ける。
 惨憺な人道の敵は海の彼方。来るべき戦場の憤怒をこめて、演習も實戦死ら

突撃！
 此の瞬間、雄略を揮うがす銃聲を壓し、此の瞬間、不慮のトチカを奪取した。並ぶ精神な顔もちつと見てみると過ぐる。吳淞附近の敵前上陸の際に挺身陸軍に先立つて登岸、頭部を掃蕩して陸軍の揚陸を成功せしめた竹下決死白澤隊の死闘記が新たな感涙を以て蘇へてくる。



上海戦線の八月二十七日、血塗られたついでに戦死を遂げた瀾洲水兵の物語は、未だ我々の耳に生々しい。「仇は此の眼で！」と、戦友の甲合戦を誓ふ若き海兵の眼は、既に百戦百中。

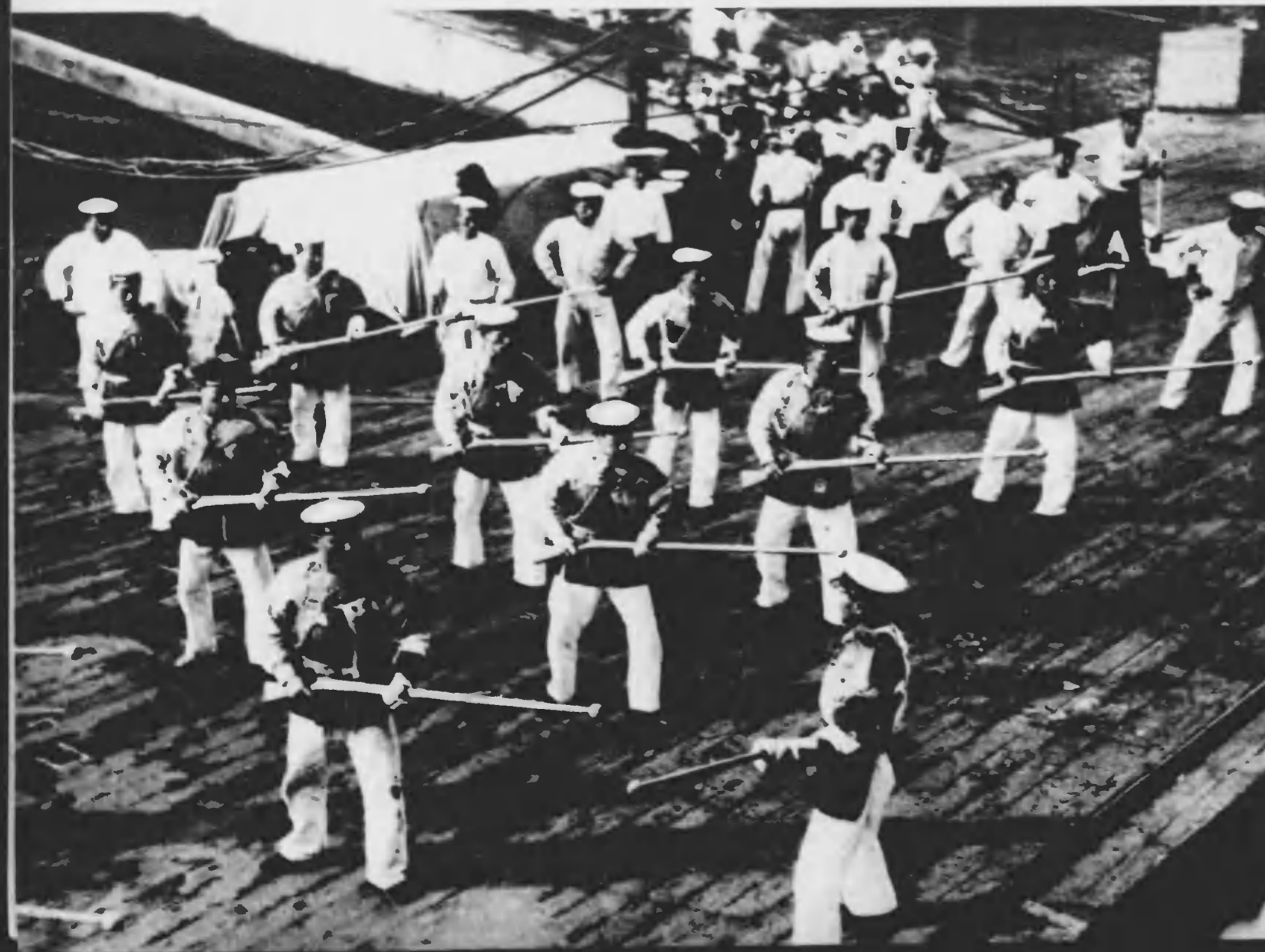
防いで鐵壁、攻めて無敵、血湧き肉躍る白兵戦寸前の壯観。





新司令長官
を迎へた
出雲

武人の魂武器の手入れ、武装の構へ、ベルグマン機銃を手に一去年の夏は、こいつを陸らせて浦東と渡りあつたなあ、早いもんだ、もう一年が来る」と銃の油の香にあの頃の激戦、楽しかつた緊張を思ひ出す。



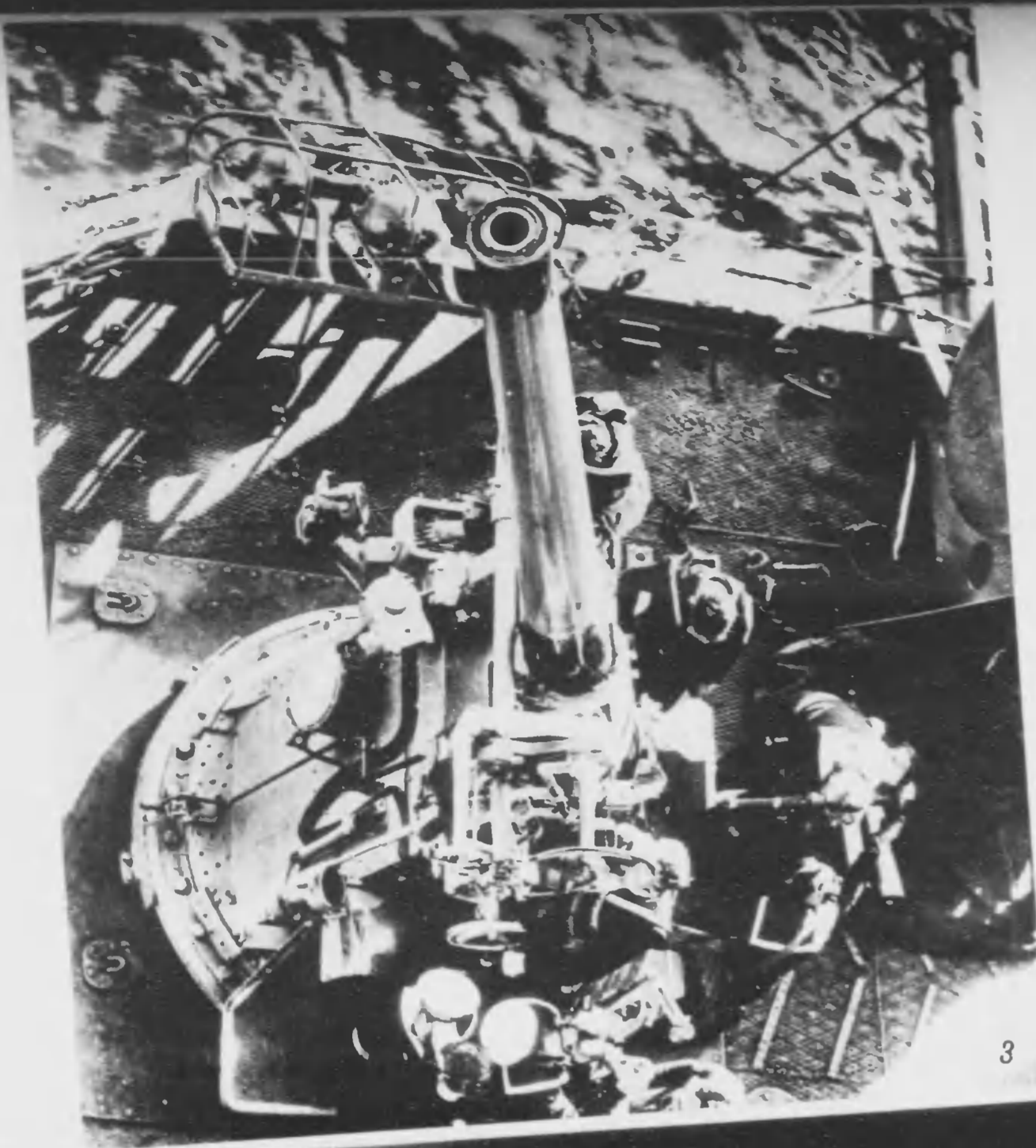
本誌を手に、ゆつたりと初夏の微風に、降りそそぐ江上の陽に、及川新司令長官はどつかと構へて「なあに、ちよとそそつとで動くもつか、帝國の方針はいつも變りなくまさに不動ちや」とまさに動かうともしない。

「エイ、オー」虹口碼頭の雄叫びは出雲の艦側にこだまして江上を燃す。大和男の子の意気高く、「出雲」は新司令長官を迎へてます。壯。



黄浦江上に輝く武勳の巨艦を構へて、わが第三艦隊旗艦「出雲」は初夏と共に新司令長官及川忠治中将を迎へた。戦艦はいつしか洗はれて、緑の風に上海の高く軍艦旗ははためく、新生支那の建設を見守るが如く。

「まあ夏が来たな。去年の夏の洗濯に、あいつは耐つたシャボンを取りに行つて怪我をして来たか、今頃はどうしてるかな」黄浦江上浮城の甲板に疎列されかきヤツの船艦が早くも一年に迫るあの日の思ひ出にゆらく。



3



方彼の海

軍海米英を濤波

一九三〇年に締結されたロンドン軍縮条約は一九三六年で期限が切れ、世界は再び無條約時代に入った。然し、帝國海軍の堅持する他國を脅かさない、他國に侵略されないといふ根本の考へは少しも變らないのに、今年三月ロンドンに開かれた英米佛三國海軍専門委員会は、「他國が制限外の軍艦を造つてゐる」といふ點方もない浮説を理由にしてエスカレートした條項を適用することに決めて終つた。かうして列強は一齊に未曾有の大軍艦豫算を以て大艦巨砲主義の刷新船のスタートを切りつゝある。

もう、世界七洋いづこの大海上にも平和の波は見られない。東亞の國々、われわれは、世界に誇るわが海軍力を以てして、今直ぐに國防に不安を感ずるやうなことはないとはいへ、今更、ますます帝國の動きに注意を拂ひ「來らざるを待つ」ことなく待つあるの準備を完成する」ことを忘れてはならない。

(「週報」第七十一號所載「建艦通關問題と帝國海軍軍備」参照)

1. 2. 米海軍は去る三月十四日から六週間に亘り、太平洋上で壯烈な立體大演習を展開した。しかも、今度の大演習は従来の防禦作戦をすて、積極的濶洋作戦の態をとるものとして即ち注目される。同演習の作戦第十九號進行中の1. 航空母艦・2. 戦艦

3. 最近の大西洋上の英艦隊大演習に参加したリヴェンチ號の大高射砲、乗員は毒ガス空襲に備へ、防毒マスクをつけて作業中である。



踏む大地
漲る力

國民精神總動員

鐵道省

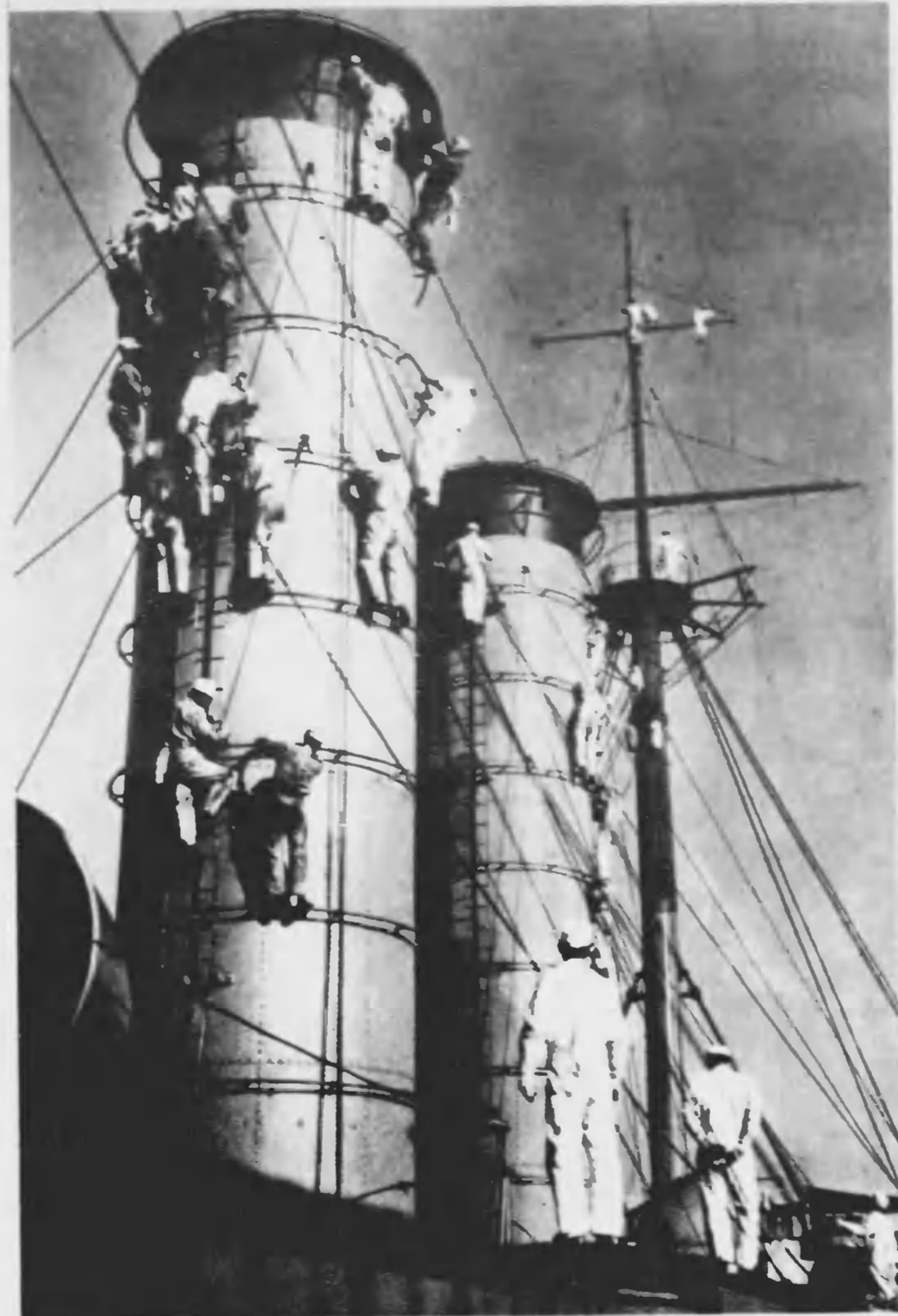


下の練習艦隊

今年度練習艦隊「新子」一八隻、兩艦隊
本朝下に乗りこむ研究學生を乗せて四月六
日午前十一時横須賀港を出帆したが、「こ
の」艦隊は、内海を航行するに
際して、特に本朝へ意をたのむのである。

♪ 勇壯な空襲威嚇訓練
内地巡視は終へた。
艦々懐れの遠洋航海だ
何しろ晴れの場所に出るのだ。艦夫もマス
トもきれいに磨りかへ
てわれらの艦も他所行
きの仕度をしてやらね
ばならぬ。

♫ 帝國の海の威りを以前に懐の懐れの
大伴に果立つ日、それは海軍士官にと
つて生涯忘れられぬ感激の日であらう
きふまでの生涯はうれしい少尉
候補生服、そして、いまだ海軍兵學
校で海軍理學校で、或は海軍兵學
校で修練した法術を實地に活用すべ
き練習艦隊がこの晴れの候補生を遣へ
てやつて来た。陸上から海上勤務へ、
風爽とスクートを切る我が子を、兄
を送る目頭に感激の輝が光る。



正誤
第十四號(時下)の記号
中「艦隊」は「艦隊」とあるは「艦隊」
艦下「艦隊」は「艦隊」とあるは「艦隊」
に父「艦隊」は「艦隊」とあるは「艦隊」
るは「艦隊」は「艦隊」とあるは「艦隊」
を「艦隊」は「艦隊」とあるは「艦隊」

今週のキヤメラ

表紙(海軍) 特
日露海軍 海軍省
若鷲の羽ばたき 海軍省
精悍なが陸軍 海軍省
新司令長官 特
を迎へた出撃 特
海の彼方(海軍) 同閣通信社
下野の練習艦隊 海軍省

寫眞週報(禁煙)

昭和十三年五月二十五日印刷發行
發行所 内閣情報部
印刷所 大日本印刷株式會社
加算料 一ノ二番
定 一ケ年(前金) 四圓八十錢
一ケ年分未滿配送希望の方は一ケ年分の割合を以て前金を添へ御申込み下さい
高貴週報配送部
東京市神田區内幸町二ノ二〇
電話 四六八二
大阪市東區東區三ノ八〇〇番
電話 三三八〇
全國各地官報販賣所
東都書籍株式會社
最寄書店・販賣店
各地新聞販賣所
寫眞材料店

写真週報 昭和十一年五月十一日 第... 昭和十一年五月二十日発行 第十五號

マツダ真空管



お・清朗の音色

二割明るく
二割のお徳



新マツダランプ

(本書の大きさは横切A4・「倍率」倍判)